

予算審査特別委員会

総括質疑

予算審査特別委員会での2名の議員が質疑を行いました。

川村 多美男 議員

●消費電力抑制やCO₂削減のためにも役場から直管LEDの導入をすべきだ。

●一般住宅火災報知器の更なる設置率向上に向け取り組みべきだ。

●桜公園の遊具等を含めた全体的改修が必要ではないか。

●旭1号公園内のトイレの水洗化をすべきではないか。



— 標茶町立図書館 —

●小中学校の夏・冬休み期間中も標茶図書館の開館を。

館田 賢治 議員

●職員の挨拶励行、出勤時間の厳守について。

●国の特別公債法案による町への影響は。

●再生エネルギー、太陽光発電への助成をどう考えるか。

●介護保険訪問介護、医療を含む24時間体制への対応状況は。

●地域総合整備資金元金繰上償還による町との関わりについて。

●農業委員会事務局長を専任配置する考えは。

●合併浄化槽設置の実現見通しは。

意見書

次の4件の意見書が可決され、関係機関に送付されました。

◆意見書第15号

義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など2013年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書

義務教育への国庫負担の堅持と充実、「30人以下学級」の早期実現、教頭・養護教諭・事務職員の全校配置、給食費、修学旅行費、教材費等の保護者負担の解消など教育環境の改善充実を求めたものです。

◆意見書第16号

道教委「新たな高校教育に関する指針」の見直しと地域や子どもの実態に

応じた高校づくりの実現を求める意見書

北海道教育委員会が2006年に策定した「新たな高校教育に関する指針」は、地域の衰退につながることから見直しを求め、「公立高校配置計画」については地域や住民の意見を聞くこと、「遠距離通学費等補助制度」の存続と制度対象の拡大を求めたものです。

◆意見書第17号

緊急事態に関する意見書
外部からの武力攻撃、テロ及び大規模自然災害、尖閣諸島や北方領土等の領土問題や北朝鮮によるミサイルの脅威など国民の生命・財産を脅かす事態を想定し、緊急事態に対応する必要な法整備を要望したものです。

◆意見書第18号

2次医療圏の設定に関する意見書

国に対して「2次医療圏の見直し」に対しては、人口規模だけでなく、面積や自然環境等の地理的条件、交通事情等の社会的条件を踏まえて検討し、都道府県の自主的判断に基づく柔軟な取り扱いが可能となるよう、地域の医療体制の維持、充実を要望したものです。

他に次の意見書が提出されましたが、いずれも少数否決されました。

◆意見書案第12号

国民の声に耳を傾け、消費税増税の撤回を求める意見書

◆意見書第13号

米海兵隊の垂直離着陸輸送機オスプレイの配備撤回を求める意見書

◆意見書第14号

野田首相の福島原発事故の「収束宣言」の撤回、福島原発事故原因の徹底究明・検証と北海道泊原発をはじめとする原発の再稼働をしないことを求める意見書

常任委員会報告

総務経済委員会

◆調査日時

平成24年5月15日
平成24年8月9日～10日
平成24年8月29日

◆調査事項

太陽光発電について
バイオガス発電について

◆調査の経過及び内容

平成23年3月11日の東日本大震災による福島第一原発の事故以来、エネルギーのあり方が見直されてきている。太陽光発電、バイオガス発電の現状について、それぞれ先進地の視察を行ない、調査を行った。

◆委員会の所見

太陽光発電は安定的な供給とはならないが、環境に

やさしいエネルギーとして今後も普及が進むと考えられる。システムの購入、設置費用は年々下がってきてはいるが、未だ高額なため導入経費が最大の問題となっている。今後、国の補助制度の動向を注視しながら、本町でも補助制度、資金貸付制度の創設に向け検討し実施すべきである。

バイオガスプラントは、家畜ふん尿の適正処理による環境改善、CO₂削減による地球温暖化防止、バイオガスによるエネルギー生成、有機質肥料として消化液の製造など多様な要素がある。

施設整備には多額の費用がかかるが、本町の基幹産業である酪農の維持継続を図る点からも、また、売電価格が1KWh当り39円となったことにより、費用対効果の面からも十分導入が可能な状態と考えられる。



— 鹿追町環境保全センター バイオガスプラント —

導入を促進させるため、標茶町も環境にやさしい自然エネルギー、地域に賦存する新エネルギー、再生可能エネルギーを推進していく町を目指し、総体的に検討することが必要と考える。

8月に「標茶町エコヴィレッジ推進協議会」が設立されたが、標茶町が目指す環境にやさしい資源循環型酪農の基本理念を早急に策定し、本町にふさわしい再生可能・自然エネルギーの活用についての方策を推進することが必要である。

厚生文教委員会

◆調査日時

平成24年8月7日

◆調査場所

標茶町役場 議員室

◆調査事項

さくら保育園、町立幼稚園の合築後の運営について

◆調査の経過

住民課長から、23年7月21日さくら保育園、町立幼稚園改修に係わる保護者説明会から24年7月18日さくら保育園、町立幼稚園合築に係わる保護者合同説明会までの経過を説明会での説明資料に基づき説明を受けた。その後質疑を行った。

◆委員会の所見

標茶町第4期総合計画に基づき合築が進められている。

幼稚園、保育園での集団

生活などは、心身の健やかな成長を促しコミュニケーションが育成される重要な時間でもある。幼児の望ましい心身の発達を促す幼児教育や家庭教育を進めていくことが求められている。幼保一元化のメリットを生かし、標茶型幼保一元化をさらに視野にいれた環境整備を進めていくのが重要である。



— まちどおしいなあ〜桜保育園、町立幼稚園合築工事 —

第三回定例会 議会日程から

六月二十八日	広報調査特別委員会
六月二十九日	広報調査特別委員会
七月三日	北海道町村議会議員研修会
七月九日	広報調査特別委員会
七月十二日	広報調査特別委員会
八月六日	議会運営委員会
八月七日	第二回臨時会
八月七日	厚生文教委員会所管事務調査
八月八日	標茶農協との意見交換会
八月九日	総務経済委員会所管事務調査
〃十日	
八月十七日	川上郡衛生処理組合議会第二回定例会
八月二十九日	総務経済委員会所管事務調査
八月二十九日	釧路北部消防事務組合議会第二回定例会
九月七日	議会運営委員会
九月七日	議員会第七回学習会
九月十一日	第三回定例会
〃十二日	



一 産業まつりでの中学生ボランティアによるごみ分別回収

編集後記

第3回定例会は9月11日・12日の二日間に亘り開催されました。一般質問は7名11件、予算総括質疑は2名12件を町長、教育長に対し活発な質疑、応答が展開されました。定例会に先立ち9月1日には標茶町総合防災訓練が実施され、各町内会住民の参加をはじめ、緊急救出や人工蘇生等消防団員による緊迫した実地訓練が行われました。本町は地震や大雨による洪水の災害時を想定した各機関との協定が結ばれていることは大変意義深いと考えております。

東日本大震災から1年半が経過し、復旧・復興のスピードアップが期待されます。議会として予算の配分等に意を配し町民のための予算になっているのか、議会が日々精進すべく努力して参ります。

(文責 川村 多美男)